

セルフエスティームに着目した養護教諭の支援活動

～SE測定尺度「自分に関するアンケート」を活用して～

1. 設定理由

館山地区保健教育研究部が「養護教諭が行う相談活動」として心の研究をスタートさせたのは、今から約20年前。保健室来室者を対象とした相談活動を試みてきた。そんな中、子どもたちの様々な問題行動が深刻化してきたことで、本研究部では「心の健康教育」の方向性を模索し、セルフエスティーム（SE）に着目した。2000年度よりSEを高める授業を推進し、その有効性を検証するために、SE測定尺度「自分に関するアンケート」を作成した。自分に関するアンケートを実施していくと、SEの数値がとても低い子どもの他に、表面的な印象と数値との間にギャップのある子どももあり、何らかの不適応につながっているのではないかと懸念された。そこで「自分に関するアンケートを個別の支援に生かせないだろうか」と考えたのが、研究構想の始まりである。養護教諭の立場からSEに着目した個別支援のあり方を探り、子どもたちのより良い行動変容につなげていきたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- (1) 自分に関するアンケートの結果を把握し、子どもの状況とSEを関連させたアセスメントを行えば、支援の視点や方向性が明確となるだろう。
- (2) 見立てに基づいた支援計画を作成し、個々のSEに働きかける支援をしていけば、子どものより良い行動変容につながるだろう。

3. 研究内容

- (1) 自分に関するアンケート結果の把握
- (2) 子どもの状況とSEを関連させたアセスメントの方法
- (3) 見立てに基づいた支援のあり方
- (4) 個別支援を支えるとりくみ

4. 結 論

自分に関するアンケートの結果を適切に把握し、確かな見立てに基づいた手立てで、個々のSEへの働きかけを行っていくと、生活の場面で、行動や言動、表情などに様々な変化が認められ、より良い行動変容につながる事が明らかとなった。